

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300507		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームやまぶき		
所在地	埼玉県本庄市朝日町1-14-3		
自己評価作成日	平成25年2月	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivgoVoCd=1174300507-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成25年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティアの受け入れ、各種イベントを行うようにし、はりのある生活を送れるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、閑静な住宅街のなかで利用者の暮らしを支えている。玄関を入り最初に目につくのが楽しさや心地よさが伝わってくる利用者の写真の数々である。建物の内部は共同空間と各居室で構成されており、花の香りと心地よい日差しが印象的である。各居室及び浴室は広々とした空間が確保されており、ゆとりと落ち着きのある生活ができています。ホーム長を中心に「利用者の視点」がスタッフ内で共有されており、そういった意識がケアに反映されているため、利用者の表情や雰囲気はとても良い。また、ホーム長が以前医療職であったことから、内外部ともに医療面での安心感がある。利用者への思い、医療面での強み、これらが利用者の安心につながり、ホーム全体に穏やかな雰囲気を与えている。勤続10年の介護スタッフも在籍し、ケアを支える仕組みが整っていることが最大の魅力である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根づいたサービスを心がけ、職員間での報告、連絡、相談を徹底して、事業所理念を共有しつつ実践に努めている。	理念はホーム内に掲示され、スタッフ間で共有できている。職員教育や日々のケア、ケアプランにも反映されている。毎月の会議で意思統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、自治会長さんなど地域の皆様との交流を密にして、特に推進会議の場を設けて、一層の交流を図っている。	事業所にAEDが設置されていることが近隣に周知されている。夏の子ども神輿に寄ってもらいふれあいの場になっていることや、近隣の教会の方をはじめ地域とのつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々にご来訪いただき、例えばキリスト教会の慰問や、あるいは大正琴の慰問の際に、お茶を召し上がりながら利用者様との会話がはずむ等支援いただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで推進会議は開き、職員からの利用者様やサービスの状況等ご報告して、ご家族、民生委員、市役所職員との話し合いでご意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議では利用者の看取り、重度化に対する対応や火災のことなどタイムリーな課題を取り上げている。活発な意見が交わされ、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の行事などへの参加を通して交流を図る中で、協力関係を築くように努めている。	運営推進会議の参加をはじめ、連絡は密にとれている。市の職員が直接研修会の案内を持参してくれることもある。事業所側とは書類の書き方等も相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険を及ぼすやむを得ない場合を除き、行わないことを可能な限り統一している。 可能な限り見守りや声掛けを常に心がけ、なおかつ、利用者様の訴えやサインを見逃さないよう努めている。	毎月の会議で必ず研修を行い、身体拘束を行わないケアについて取り組んでいる。言葉の抑制についても行わないことをスタッフ一丸となって取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に話題として、考えや情報を共有して、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において学習する機会を積極的に設け、より理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の希望を伺い、それを理解した上で、十分にご説明して納得を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会、あるいは利用料の支払いで来訪された際、お話を聞き要望を伺い、意見交換を図っている。	家族に対しては面会の際は必ず意見交換が行われている。その他アンケートも実施しており、意見が言いやすい環境となっている。利用者も意見が言いやすい人的環境が整っており、意見が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の会議の場で、職員の提案等を募り、話し合いをする中で反映されるようにしている。	利用者のケアについてはカンファレンス時に活発な意見交換が行われている。スキルアップや職場環境の改善等スタッフは日々ホーム長と関わる中で意見を述べたり提案することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課評を取り入れている。代表者と管理者で話し合いを行いながら、職員の向上心を活かせる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人研修を行っている。また、職員カンファレンスにおいて、色々な話題を取り上げて、勉強を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県福祉協議会に加入していて、交流の場への参加を通して、相互の理解、相互の関わりを強めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人様の望まれていることを念入りにお聞きしている。入所後においても、常にお聞きしながら、安心して過ごして頂くための信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時からご入所に至る過程の中で、十分に時間を取りつつ、不安や疑問などお聞きしながら、関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学相談時、介護保険の説明を行っているが、他のサービス利用も視野に入れながら、1番適した対応になるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を理解して、今までの生活を職員の支援で引き続き送れるよう温かい関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を頂くために、ご本人の情報を共有することに気を配りながら、共にご本人を支えていく信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をはじめとして、散歩や買い物等外出の機会を活用しながら、支援に努めている。	自転車屋や美容室、喫茶店等、個別になじみの関係を継続するよう関わっている。散歩は近所の方と話をするいい機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴を参考にしながら、一人一人の個性を職員が理解して、利用者様同士が良い関係を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、適時、連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴を重視し、家族や本人の意思を汲み、その人らしさの実現に向け支援している。そのため、常に意見要望を受け入れています。	利用者の思いや意向は、入所時に家族から得た情報や普段の利用者との会話、表情やしぐさから読み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴を聞き、足りない情報も、日常から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察を怠らず、利用者本人の能力の見極めに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングプランを説明し、ご本人又はご家族の意見をいただいている。また、統一した支援ができるように、毎月カンファレンスを実施し担当者を中心として全職員による意見交換を行っている。	毎月のモニタリング、カンファレンスによる意見交換により個々に応じた介護計画が作成されている。家族や利用者の意見が反映されている。日々の記録は介護計画と関連付けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を記録し、職員で協力し意見交換しつつ、支援に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なサービスが提供できるように、家族への連絡等行っている。また外出、医療受診も行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の馴染みの場、思い出の場を把握し、安心安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族の考えに基づき、希望の医療機関を利用できるようにしている。ご希望のない時は、同意後、協力医療機関の往診を行っている。	基本的には今までのかかりつけ医を勧めている。希望がない場合は協力医療機関の医師が対応しており、連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師による健康管理が行われている。問題発生時は、昼夜問わず助言、指導を受けられる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族、医療機関との情報交換を密に取れるよう心掛けている。早期退院ができるように上記の件に気を配っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を設け、入居前、入居後、必要に応じ、重度化した場合、事業所側が提供させていただける事を本人、家族と話し合い、説明し加え検討をしている。	看取り及び重度化については家族や本人の意向をできるだけ尊重し、ホームで行えることを医師も介入してもらい説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万一の急変に備え、AEDを設置、使用の訓練をしている。 急変時の連絡体制を整え、職員、関係者や家族に迅速に情報伝達できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施をはじめ、運営推進会議等でも避難先と、経路について周知徹底している。	昼夜を想定した、避難訓練また火災訓練も実施されている。民生委員等地域住民の参加もある。風水害等のマニュアルも作成されている。	災害訓練についてこれまで以上の周知と地域住民との連携を深め一層の安全確保への取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴はもちろんのこと、生活歴に基づき、個人の時間等にも配慮し、対応している。	利用者が独りである時間も大切にしている。トイレや排泄にはプライバシーに配慮した声かけを行い羞恥心に配慮した対応がされている。性差にも配慮した関わりが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えに不安にさせる事なくスムーズに対応できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望にこたえられる様に支援につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に応じ洋服に気くばりしたり本人に声掛けを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活において可能な限り、強制することなく自然な形でお手伝いして頂けるよう心掛けている。	個人の好みに合わせて様々な食事内容が提供されている。パンの訪問販売やヤクルトの訪問もある。季節を感じる事ができるメニューや外食も多くある。事業所内で採れた野菜も食卓にあがる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った量、献立がかたよらないようにし、水分はいろいろな工夫をしながら摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や寝る前にうがいをして頂き義歯を外し歯ブラシで磨きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量の多い利用者様には行かれる回数を増やし排泄がなかった時には再度声掛けでトイレ誘導にて支援している。	個々の排泄リズム、水分量、体調の把握し、その方に合った声かけ等工夫しトイレでの排泄を支援している。適切な水分量を摂取できるように飲み物の工夫もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の日数を注意し運動はもちろんスムーズな排便に繋がるようにナースなどに相談しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がある日には、いつでも気兼ねなく申し出て頂けるよう配慮している。	時間を問わずいつでも入浴できることが掲示されており、個々のタイミングで入浴できる。ゆず、しょうぶ等季節感があり楽しんで入浴できるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前には安心して入眠できるように楽しい会話などすることで安心感を持って頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には本人の物か確認し違いのない様に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様にできる役割をしてもらい終わった時には心からありがとうございますの声かけに自分の自信に繋がるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活暦を参考とし、馴染みの場所や買物、散歩等、季節のイベントを含め、楽しみ方の支援に努めている。	商店やスーパーをはじめ、近隣のお寺等も本人の希望に沿って外出している。家族に協力してもらい外出することもある。公園で井戸端会議に参加することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物を買ったりする時は必ずお金を見てもらい支払いをしている。自分で支払いができる利用者様には職員同行の上で自ら支払いをしてもらい見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙などが届くと本人に見せ居室に置いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々過ごすホールには生花を飾ったり手作りの掲示物など、季節感の配慮をしている。また、トイレには自立している方が、いつでも清潔に気持ちよく使用して頂けるよう、常に掃除用具をセットし、不快な思いをしないよう心掛けている。	個々の好みに配慮し、不快にならないようにしている。利用者の希望に沿って花を飾っている。季節感に配慮されている。ラジオや音楽を聴きたい方へは個別に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中個人個人の安心して過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より今までお使いになっていた馴染みの家具や、思い出の品、大切にしていた品物などを持ち込んで配置をお願いし、個人に合った落ち着ける空間を提供している。	個々の生活観ある居室環境である。はし、タンス、歯ブラシ等もすべてこれまで使用していたものが活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になる物など置かないように安全に生活ができるようにしている。		